

令和7年度福島支部評議員会を終えて

今年度の評議員会は、来賓・評議員・役員45名の参加のもと6月14日(土)杉妻会館において開催されました。はじめに渋谷支部長から以下の4つの課題等を含めた挨拶がありました。

- 1 支部会費の値上げ
- 2 令和8年度における同窓吾峰会福島支部会員名簿の発行
- 3 令和9年度同窓吾峰会創立140周年記念大会の福島支部開催
- 4 事務局だよりの名称を「輝峰」への変更

次に、ご来賓の県北教育事務所岩野政二次長から、「幸せを紡ぐ県北の教育」などについて、続いて福島市教育委員会佐藤秀美教育長、川俣町教育委員会佐久間裕晴教育長のお二人を代表して、佐藤教育長からは、松陵義務教育学校の開校や川俣の山木屋小学校再開などについてのお話がありました。

同窓吾峰会山寺精吉事務局長からは、組織強化の取組として県外在住者への「吾峰」の講読希望調査を行ったところ希望者が321名あったこと、今年度は福島県内において支部に所属していない会員へ同様の調査を行う予定であることなどのお話がありました。

その後、飯沼信一評議員を議長に選出し協議を行いました。6年度の事業・会計報告及び7年度事業計画・予算案とともに会費を800円に値上げすることが提案どおり承認されました。最後に評議員の役割や名簿作成・会費納入等について確認し合い、会を終えました。



佐藤秀美福島市教育長



山寺精吉事務局長



渋谷朗福島支部長



岩野政二県北教育事務所次長

研修会 講演

今年の研修会は、福島大学人間発達文化学類 鳴川哲也教授にご講演いただきました。

演題「持続可能な社会の作り手」を育てるために ～理科教育を通して考えてきたこと～

鳴川哲也教授の講演をお聴きして 参加者からの感想

学びを愉しむのは子どもだけじゃない！
～理科の授業から見つめる教師の在り方～

福島市立三河台小学校 教諭 野口 卓也

「文部科学省で理科の教科調査官をやっている、理科に対する考えがぶれることはなかったです」

講演の一番初めに、鳴川先生はこのようなお話をされました。福島県の諸先輩方の厳しくも温かい指導や理科の仲間との熱い議論が、鳴川先生の理科の授業を形づくったものであるということに改めて感じることができました。ここでは紙面の関係上、特に印象に残った講演内容についてご紹介いたします。

目の前の子どもの姿を大切に授業をめざして

鳴川先生が教諭時代に出会ったS君が、昆虫の特徴の学習をしている際に「カマキリの鎌は、脚じゃないよね。そしたらカマキリは昆虫ではないね」という発言をしたそうです。このS君の発言が、鳴川先生の授業観を大きく変えたとのことでした。目の前の子どもの思いに寄り添い、子どもとともに問題解決を愉しむ教師の構えの大切さを改めて学ぶことができました。

再考！「理科の本質」とは？

みなさんは、子どもに「どうして理科を学ぶの？」と聞かれたら、どのように答えるでしょうか。鳴川先生は、インターネット検索をすれば答えがすぐに見つかる時代に、科学的な問題解決を行い、子どもも教師も、そのよさや価値を実感することが大切だと話されていました。また、理科は他の教科とは違い、自然の事物・現象を対象としているため、人間がコントロールできないことを自覚すべきだとお話されていました。理科を学ぶ意義や価値を再確認することで、今後の授業実践も変わってきそうだと思います。

柔らかい物腰で話される鳴川先生の魅力に惹きつけられて、あっという間の1時間でした。「目の前の子どもたちの成長のためにさらに頑張ろう！」と、エネルギーをもらうことができました。



講演中の鳴川哲也教授

福島支部評議員会研修会懇親会に参加して

役員の方々に感謝して 参加者 平野哲哉評議員からの感想

今回の会合に出席して、改めて役員の方々のご努力に頭のさがる思いでした。そして、人との関わりの大切さを感じ、心が満たされ帰宅。会費値上げについて～評議員会～では、諸々の条件を考慮すると今までの会費でよく運営されてきたものだと感じ。担当方部の会員の方々から会費を預かる時、よく説明、話合いの糸口にしたいと思いました。子どもたちの五感・発想を大事に

～講演会～では、理科教育を通して「『持続可能な社会の創り手』を育てるために」というテーマで教育全体の目指すべき指針の提示。「どんな職業ではなくその職業で何をを目指したいのか？」に同感です。会員同士の絆を深める～懇親会～では、人間とは、人と人との間。人生の豊かな学びは、人との関わりを大切に過ごすことと思ひながら会場を後にしました。研修会・懇親会には全会員に参加案内、多くの参加を期待しています。



笑顔で飲み交わす会員



金谷川キャンパスでの大学生生活 ～副免体育の小学校教師をめざして～

平成3年卒 教育学部小学校課程（教育表現系B） 邊見まゆみ

私が福島大学教育学部に入学したのは、昭和61年の春。入学当時、私は小学校教諭を目指して入学したのだから、小学校教諭免許状の取得をするだけでよいのだと考えていました。ところが、副免の中学校・高等学校教諭免許状の教科を何にするかによって小学校課程において所属するクラスが決まるということを入学後のガイダンスで知りました。さてどうしようと悩んだ末、私は「表現系Bクラス」を選択。今振り返ると、現在の私の教職の様々な根っこの部分が、この時決まったといっても過言ではありません。「61表現系Bクラス」通称で「61表B」は、中・高の保健体育科の教員免許を副免で取得するコースです。保健体育に興味があるという簡単な気持ちでこの選択をしたことで、その後に様々な試練を迎えることになるのは、この時は全く想像もしていませんでした。保健体育科は好きな教科でしたが、人より秀でて何かが得意だったわけでもない私がなぜこの選択をしたか、それは、小学校時代の恩師で体育科の研究をしていた女性のF先生の存在でした。私が小学生だった当時、体育科の先生は男性というイメージを強くもっていた私にとって、そのF先生はとてにかっこよく、あこがれの存在でした。とても厳しい先生でしたが、常に先を見通して導く先生の教育に対する熱量は本当にすごいものでした。保健体育についてさらに詳しく学んだら、あこがれのF先生に近づけるのではないかという気持ちもあったのかもしれません。こうして、小学校の教員を目指す私の大学生活が幕を開けました。ちなみに、恩師のF先生は90歳を超えた現在もお元気で、時々電話でお話させていただき、活力をいただいています。本当にありがたいことです。



S60年頃の第二体育館（手前）

さて福島大学金谷川キャンパス内の一番の思い出の場所ですが、まずは第2体育館の2階にある体操室です。リズム体操部に所属していた私は、この場所で、顧問の菅家礼子先生の指導を受けながら、仲間たちとともに質の高い身体動き・表現を目指し、日々厳しくも楽しい練習に取り組んでいたことが懐かしく思い出されます。他にも、第一体育館やグラウンド、プールでは、保健体育科の様々な競技専門の実技の授業があり、各種目の実技試験を合格しないと単位がもらえないという現実を前に、必死になって練習をしたことも今では笑える懐かしい思い出です。何度やっても合格ラインの記録を超えない、動きができない私に、根気強く付き合ってくださった保健体育科の先生方や仲間たちには本当に感謝でしかありません。実技試験がうまくできなかったこの時の経験が教員になってからの「できない子どもの気持ちを理解する」ことに大きく生かされたように思います。

授業の空きコマに通った学生協の2階にある喫茶「グリーン」は憩いの場として思い出がある場所です。行けば誰かがいて、雑談して過ごしたり、時には試験の情報交換をしたり、友人たちとともかなりの時間を過ごしたものでした。

今では金谷川キャンパス構内の植栽も大きくなり、新しい校舎も増設され、金谷川駅周辺には住宅やアパートなどが立ち並び、驚くほど様子が変わってしまいました。年月と共に変化していくことはあっても、母校「福島大学」が、これからも学生たちに“多くの経験と学びをもたらす場”“夢に向かって歩みを進める場”“自分を育ててくれる人との出会いの場”であり続けてほしいと願っています。



学生協（今は大学会館と呼ぶ）前広場

賀 寿 状 贈 呈

山川 進一様

3月21日95歳のお誕生日当日、渋谷支部長と内藤副支部長が自宅へ訪問。師範学校最後の卒業生であり学芸学部一期生であること、当時の様子や学徒動員で苦労されたことなどを話されるお姿は終始背筋が伸びかくしゃくとしておられました。今でもフィットネスクラブに通われているとのことでした。



佐藤 芳江様

6月13日誕生日当日、渋谷支部長と吉川博評議員が自宅へ訪問。師範学校卒業後、福二小では加藤茶さんを4～6年の3年間担任。また荒井小では石原洋三郎さんを担任。勤務校毎に保管整理されたアルバムを見ながらお話をお聞きしました。若い頃から親しんだジャズダンスも2・3年前まで踊っていたとのことでお元気でした。



山崎 英子様

7月8日渋谷支部長と高橋優子評議員が自宅へ訪問。大好きなお花の手入れをしながら大変お元気に過ごされておりました。学芸学部一期生のお仲間との絆が強かったことやテニスでインカレに出場した時の楽しかった思い出などをお聞かせいただきました。



白田 徳子様 施設に入居されて面会はできませんでした。賀寿状をご子息様へお渡しいたしました。

同窓吾峰会福島支部だよりの名称は「^{きほう}輝峰」に

唱歌「ふるさと」の歌詞に♪山はおおおきふるさと 水は清きふるさと♪とありますが、思い悩んだ時、喜びに包まれた時、帰郷の時、幼き頃から見守られてきた故郷の山々に心癒やされ励まされた思いは誰にでもあるのではないのでしょうか。吾妻小富士を抱く吾妻連峰、地元の信夫山や花塚山…。私たちはこれからもいろんな思いで故郷の山を眺めるでしょう。そして故郷の山は、私たちに豊かな思いを与えてくれることでしょう。

そんな故郷の山々に感謝の念と輝く明日への希望の思いを込めて、このたび本会報の名称を「^{きほう}輝峰」と改名いたしました。



ぜひぜひ！

下記QRコードから
同窓吾峰会(本部)HPへ
アクセス!!!

過去の会報や大学の歴史、
写真などいつでも見られます。

